

長身の30歳の女性が紹介で来院した。首・肩の凝りがつらいと言う。初回の治療でよく効き、すぐに、同じく肩凝りに悩む母親を連れて来た。彼女は何度か来院していたが、ある時、顔が赤くなってしまい来れないと予約キャンセルの電話があった。その数日後に来院した母親から事情を聞くことができた。

1ヵ月後の友人の結婚式前に、にきびを治療しておきたくなくて、皮膚科を受診し、そこで薬を貰って塗ったりしたところ、顔が赤くなってしまったと言う。今は別の皮膚科に受診して薬を貰っているが、赤くなってしまった顔が良くなれない。

鍼灸や漢方薬がよく効く旨を母親に話すと、彼女から電話があり、翌日、通勤前にマスクを着けて来院した。

初めの皮膚科では抗生物質とビタミン剤を貰っていた。現在使っている薬を見せて貰うと、最も強いステロイドであった。それにもかかわらず、良くなっていないという訳だ。

そこで、診察した。顔は赤く熱を持ち邪気を感じる。胸に手をかざすと、熱気とポツポツと当る邪気を感じた。この邪気と熱気が顔にも行っているわけである。おそらく抗生物質に対するアレルギー反応として生成されたものである。胸の裏側の背で、やはり邪気と熱気を感じるところから、邪気と熱気を取り除く鍼を中心に施術し、背全体を緩め、全体の循環を良くした。これで胸の邪気と熱気を減ったが、奥にはそうしたものを生み出す物質的なものが残っている筈で、その処理の為に、黄連解毒湯3日飲むよう勧めた。

会社からの帰宅後に飲むのでは遅い。急性症にはてきぱきと対応しなければいけない。そこで、漢方薬店に予め煎じておいてもらえる様に

頼んだ。彼女は1日分3回の内の1回分を漢方薬店で先ず飲み、残りは持参のステンレスボトルに入れて貰うことにした。ステンレスボトルは貸して上げた。

3日後來院。顔の赤味は減っていて、顔を洗うのが嫌でなくなったと喜んでいて。邪気も熱気も減っている。胸に熱気と邪気を感じる一方、下腹部が冷えている。便通がなく、腰が重いと言う。対応する鍼を施術し、今度は黄連湯3日分を勧めた。黄連解毒湯は取り除く作用のある薬味(生薬)ばかりの薬方だが、黄連湯には黄連以外は温めたり凝りを緩めたりする薬味が入っている。

その3日後、更に4日後と来院し、鍼灸治療と漢方薬を病態に合わせて対応した。更に4日後に来院した。顔の発赤が無くなっていただけでなく、にきびも無くなってしまった。

抗生物質に反応する形で、体内の毒が顔から溢れ出したのが、顔の発赤であった。それに対して鍼灸や漢方薬は、排尿・排便等、通常の体外排出ルートからの毒の排出を促がすことになり、顔の発赤は減らすことができた。発赤をもたらした毒とにきびを生み出す毒は同じであったので、発赤だけでなくにきびも無くなったというわけである。彼女は無事どころか、当初の予定通り、にきびの無い顔で友人の結婚式に参列できた。

その後、同じ様な事が私の息子でもあった。まだ一歳にならぬ前に水疱瘡に罹った息子には、片方の膝窩を覆う形で湿疹があった。特別に治療せず、経過を観察していたところだった。それが一週間程の水疱瘡を経て、ほとんど消退してしまった。水疱瘡と一緒に湿疹の毒も体外に排出されてしまったわけである。

(2010年11月立冬)